

セグメント別事業概況

送・変電(託送)

業績ハイライト

当期の電力託送による売上高は、前期比0.1%減少の543億円となりました。

事業の概要

J-POWERは、広域的な電力供給を行う卸電気事業者として、全国に総延長約2,400kmに及び送電線と8ヵ所の変電所・変換所を保有・運転しています。全国の電力会社の系統の一部を担い、異なる地域電力会社間を連系して、日本の電力系統全体を総合的に運用する上で大きな役割を果たしています。

特に、本州と北海道・四国・九州のそれぞれをつなぐ広域連系設備(北本連系設備、本四連系線、阿南紀北直流幹線、関門

連系線)や、周波数の異なる東日本(50ヘルツ)と西日本(60ヘルツ)をつなぐ佐久間周波数変換所は、日本の広域融通を担う重要な設備です。

また、全国に電力用通信ネットワークを整備しており、発電所の運転、電力系統の運用に寄与するため、電力設備の保護、監視・制御、運用業務などに使用されています。

事業の見通し

東日本大震災により電力需給が逼迫した状況において、北海道と本州を海底ケーブルで結ぶ北本連系設備や佐久間周波数変換所などJ-POWERの送・変電設備は、需給バランスの改善に貢献しました。今後も設備の信頼度を維持し、安定的な稼働を確保することに力を注いでいきます。

主な地域間送電線路 (2011年3月末現在)

| 主な送電線路 | 運用開始年 | 区間 | 亘長 | 使用電圧 |
|--------------|-------|-------------------------|---------|-------------|
| 十勝幹線 | 1956年 | 足寄発電所～北海道電力 南札幌変電所 | 214.4km | 187kV |
| 北本直流幹線(直流区間) | 1979年 | 函館交直変換所～上北交直変換所 | 167.4km | DC±250kV |
| 只見幹線 | 1959年 | 田子倉発電所～西東京変電所 | 216.2km | 275kV-500kV |
| 佐久間東幹線 | 1956年 | 佐久間発電所～西東京変電所 | 197.2km | 275kV |
| 佐久間西幹線 | 1956年 | 佐久間発電所～名古屋変電所 | 107.7km | 275kV |
| 御母衣幹線 | 1960年 | 御母衣発電所～名古屋変電所 | 108.6km | 275kV |
| 奈半利幹線 | 1960年 | 魚梁瀬発電所～伊予開閉所 | 119.9km | 187kV |
| 本四連系線 | 1994年 | 四国電力 讃岐変電所～中国電力 東岡山変電所 | 127.0km | 500kV |
| 阿南紀北直流幹線 | 2000年 | 阿南交直変換所～紀北交直変換所 | 99.8km | DC±250kV |
| 関門連系線 | 1980年 | 九州電力 北九州変電所～中国電力 新山口変電所 | 64.2km | 500kV |

変電所 (2011年3月末現在)

| 変電所名 | 運用開始年 | 所在地 | 出力 |
|--------|-------|---------|--------------|
| 南川越変電所 | 1959年 | 埼玉県川越市 | 1,542,000kVA |
| 西東京変電所 | 1956年 | 東京都町田市 | 1,350,000kVA |
| 名古屋変電所 | 1956年 | 愛知県春日井市 | 1,400,000kVA |

周波数変換所 (2011年3月末現在)

| 変換所名 | 運用開始年 | 所在地 | 出力 |
|-----------|-------|-----------|-----------|
| 佐久間周波数変換所 | 1965年 | 静岡県浜松市天竜区 | 300,000kW |

交直変換所 (2011年3月末現在)

| 変換所名 | 運用開始年 | 所在地 | 出力 |
|-------|-------|--------------|-------------|
| 函館変換所 | 1979年 | 北海道亀田郡七飯町 | 600,000kW |
| 上北変換所 | 1979年 | 青森県上北郡東北町 | 600,000kW |
| 紀北変換所 | 2000年 | 和歌山県伊都郡かつらぎ町 | 1,400,000kW |
| 阿南変換所 | 2000年 | 徳島県阿南市 | 1,400,000kW |